



ラクロス女子日本代表・FUSION所属
抜井 愛海 選手



競泳 スウインみよし
スイミングスクール所属
内村 弥路 選手

内村 弥路 Uchimura Miro

平成 19 年生まれ
令和 2 年 4 月 藤久保中学校入学
スウインみよしスイミングスクール所属
第 77 回国民体育大会「いちご一会とちぎ大会」
競泳少年男子 B400m 自由形優勝、第 62 回全
国中学校水泳競技大会 1500m 自由形準優勝
好きな食べもの：ラーメン

次は世界でメダルを
中学生の時、山村学園高校にソフトボール部の見学に行った際、ラクロス部の練習を見かけて興味を持った抜井選手。全国大会に憧れていた彼女は、ラクロス部が全国大会の常連校と知り入部を決意。持ち前の運動神経とストイックさでラクロスに目覚めた抜井選手は、高校・大学・

ラ
クロス女子日本代表として2022ワールドドラクロス女子世界選手権に出場した抜井愛海選手。女子日本代表は順調に勝ち進んで決勝トーナメントに出場し、2回戦で優勝国のアメリカと対戦。残念ながら敗退しましたが、順位は歴代最高順位タイの5位を獲得しました。



①三芳町役場に表敬訪問に訪れた抜井選手と町長。②2022ワールドドラクロス女子世界選手権のニュージーランド戦でプレーする抜井選手。

中学生の時、山村学園高校にソフトボール部の見学に行った際、ラクロス部の練習を見かけて興味を持った抜井選手。全国大会に憧れていた彼女は、ラクロス部が全国大会の常連校と知り入部を決意。持ち前の運動神経とストイックさでラクロスに目覚めた抜井選手は、高校・大学・

クラブチーム FUSION (フュージョン) で主将を務め、日本代表に選出されるトップ選手に登りつめました。「今回の大会では5位が目標だったので、達成できたのがとても嬉しいです。5位以内に入ると次の大会では必ず決勝トーナメントに行けるのでメダルを狙いたい。」と意気込みます。今大会に臨むにあたり、コロナ禍で海外のチームと試合ができない中、外国人選手の体格とパワーに立ち向かうため、男子チームとの練習試合に力を入れたそうです。「練習はきつかったですが、本番では外国人選手の当たりの強さに冷静な対処ができ、次回への大きな自信に繋がる大会でした。」毎日1ミリでも成長したいと話す姿から、強さの理由が垣間見えました。

抜井 愛海 Nukui Narumi

平成 8 年生まれ。
平成 31 年 3 月 東海大学卒業
平成 31 年 4 月 FUSION 所属
ワールドラクロス女子世界選手権：2015 年度 (U19)6 位、2017 年度 9 位、2022 年度 5 位
好きな食べもの：うな重

スポーツの楽しさは？
「シュートを決めた時、自分が嬉しいだけでなくチームも観てる人達も喜んでくれる。みんな一つになれるのがスポーツの楽しさです。」と抜井選手。普段喋らない人とも、スポーツが喋るきっかけになると言います。スポーツがきっかけで話をする人がいて、色々な話をする中で面白い発見に出会うことがある。「それがラクロスに限らずスポーツの楽しさで、私が続けている理由でもあります。」そう話す抜井選手は、次の大会、そしてその先にあるラクロスの普及をめざし、今日も練習に励みます。

栃
木県で開催された国民体育大会の競泳少年男子 B400m 自由形において、藤久保中学校3年生の内村弥路選手が高校生を抑えて見事優勝しました。町にある唯一のスイミングスクールであるスウインみよしから誕生した期待のスイマーにお話を伺いました。

ライバルと競う楽しさ
3歳頃から水泳を始めたという内村選手。小学校1年生の時にコーチから選手育成コースに誘われ、毎日のようにプールで特訓する日々が始まりました。中学生になって練習がハイレベルになったことや、全国大会出場経験が増えて全国に友達ができたことがきっかけでタイムが伸びるようになったそうです。「ライバルとの差を少しでも縮めたい、結果を出したいという思いがあるから、そのためにはもう練習するしかないです。」と語ります。今回の国体では過去一番の緊張を経験したという内村選手。「緊張すると、集中していることもあって、ほとん

ど喋らなくなります。でも、なるべくいつもの大会と同じように、レース前に泳いだり、腕立て伏せをしたりして、緊張をほぐしていきました。」と話します。全国の大舞台で見事に優勝を勝ち取った内村選手。「練習はとにかく厳しいですが、自分が好きでやっていることだし、ライバルと競い合って目標タイムを出していくのが本当に楽しい。」と語る顔は、控えめながらも輝いていました。

スポーツの楽しさは？
「水泳に限らず、自分が楽しい



3人の選手が国体競泳競技で入賞 スウインみよし選手が表敬訪問

9/17～19に開催された国民体育大会で、内村弥路選手(藤中3年)が400m自由形で優勝、川野博大選手(武南高校2年)が200mバタフライ3位、中島紗希選手(武南高校1年)が100mバタフライ4位、200m個人メドレー7位の入賞を果たし、見事な成績を収めました。3選手は9/29休日に役場に表敬訪問に訪れ、町長に結果を報告されました。

と思うスポーツをやっていくうちに知り合いが増えていくと思います。その人達と競い合ったり、一緒に楽しんだりしているうちに、スポーツをする時間が大切な趣味や生きがいになっていく。それが自分の考える、スポーツの楽しいところなんです。」そう話す内村選手の様子からも、本当に楽しんで水泳をやっている雰囲気伝わってききました。夢は2028年のロサンゼルスオリンピックで金メダルを獲得することと語ってくれた内村選手。泳ぐことを楽しみながら、全身全霊で夢の舞台をめざします。